

情報通信審議会 情報通信技術分科会  
移動通信システム委員会(第7回)議事録(案)

## 1 日時

平成 24 年 2 月 17 日(金) 16:30~17:20

## 2 場所

総務省 11 階 第 3 特別会議室

## 3 出席者(敬称略)

主 査 : 安藤 真

専 門 委 員 : 飯塚 留美、伊藤 泰宏、川嶋 弘尚、河野 隆二、小林 久美子、  
丹羽 一夫、本多 美雄、松尾 綾子、宮内 瞭一、矢野 由紀子、  
若尾 正義

関 係 者 高田 潤一、眞部 利裕

事務局(総務省) : 田原移動通信課長、谷口課長補佐

説 明 補 助 者 : 近藤 博司、佐藤 勝善(ITS 情報通信システム推進会議)

## 4 配付資料

資料 7-1 第 3 回移動通信システム委員会議事録(案)

資料 7-2-1 委員会報告(案)概要(79GHz 帯高分解能レーダの技術的条件)

資料 7-2-2 委員会報告(案)(79GHz 帯高分解能レーダの技術的条件)

資料 7-2-3 委員会報告(案)参考資料(79GHz 帯高分解能レーダの技術的条件)

## 5 議事

## (1) 第 6 回移動通信システム委員会議事録(案)

事務局から資料 7-1 に基づき説明が行われ、了承された。

## (2) 79GHz 帯高分解能レーダの技術的条件の委員会報告案

79GHz 帯高分解能レーダ作業班高田主任代理から資料 7-2-1 に基づき 79GHz 帯高分解能レーダの技術的条件の委員会報告(案)について説明が行われた。

主な質疑等は、以下のとおり。

河 野 委 員 24/26GHz 帯 UWB レーダと 79GHz 帯レーダに関して、特に 79GHz 帯レーダで特筆すべき点があればご教示いただきたい。

主 任 代 理 24GHz 帯レーダは被干渉となる電波天文業務の数が多いため、平成 28 年 12 月 31 日までという時限で割り当てられているが、79GHz 帯レーダは今回委員会で検討した結果、被干渉となるのが野辺山観測所に限定され、実運用上は共存可能であるということが結果的に違う。ただし、今後の検討課題のとおり引き続き干渉低減への努力は続けていく。

川 嶋 委 員 概要の9ページにある「遠方に存在する見通し箇所の存在」という部分ですが、これはどこのことを指しているのか？

主 任 代 理 野辺山観測所から約 10km 離れたところに「本沢温泉」という電波観測所を見通せるところがあり、本計算では考慮されていないため、ただし書きとしている。なお、そこには現在のところ道路がなく、車で行くことはできない箇所である。

川 嶋 委 員 検討課題の2番目にあるマニュアル停止機能の意味だが、どういう趣旨で記載されているか。仕組みが複雑になるものではないか。せっかく良い周波数帯のレーダなのに、これが自動車のコストを上げるということになると、なかなか使われにくい事態になり得るのではないか。

事 務 局 マニュアル停止機能の項目については、将来的に干渉が起こる可能性が全くないわけではないとの懸念から今後の検討課題としているものである。また、マニュアル停止機能と同等の機能を実現するにあたってそこまで複雑な仕組みを入れなくてもよい可能性もあり、結果としてきちんと効果があればいいということで、マニュアル停止機能以外も含めて検討するというように認識している。

川 嶋 委 員 干渉したと言うことがレーダに対して伝わらない限り、レーダを切る必要がないため、リアルタイムにスイッチを切ることにはできないのではないかと。そうであれば、どこかにスイッチつけていけばいいということか。

事 務 局 今後の検討課題としてスイッチ等をつけられるように検討するということである。

安 藤 主 査 停止機能というのは要望又は指摘事項であって、それに対してはマニュアル停止機能を考慮した設計が必要だということか。

説 明 補 助 者 本件については、1年半をかけて詳細な計算方法や条件の下で検討した上で、基本的に実運用上共存可能であるという結論を得ている。しかし万が一、レーダが将来普及した時点において、干渉が生じる可能性は否定できないため、レーダ停止機能についてご指摘をいただいたものである。そのため、基本的に今すぐ考慮する必要はないが、将来に備えて考えておいて欲しいという合意の下、記載している。

また、今回の79GHz帯のレーダの場合は被干渉側の電波天文業務は日本全国で野辺山観測所一カ所だけなので、もし仮に将来干渉が起こるとしても、非常に地域的に限定されたものになる。したがって、その万が一の干渉の可能性に対して準備するにしても、必ずしもマニュアル停止機能が最適でない場合もあり、今後、もし仮に干渉が起こった場合の対応を考える際には、様々な要件を考慮し、干渉にも対応でき、より誠実に対応できる一番正しい方法は何かということ、今後の技術課題として検討する必要があると

安藤主査 事務局 河野委員 事務局 安藤主査 委員 安藤主査 事務局 安藤主査 丹羽委員 安藤主査 説明補助者 安藤主査 説明補助者 安藤主査

いうことで将来の検討課題に残している。

検討課題には必須のものを書くこともあるので、文意を明確にしてはいか  
がか。「以下の点を継続的に審議することを将来に向けて要望された」とい  
う文章が入っているともっとわかりやすいと思われる。

この文章については、長い時間をかけて合意を得たものであり、再度電波  
天文業務側と協議が必要になることが予想されるが、趣旨が明確になるよ  
うに再調整したい。

これまでの調整の経緯から察すると第 5 章の位置づけが今後の継続検討  
課題であるということが確認できれば文章を修正しないという案も含めて調  
整した方がスムーズではないか。

電波天文業務側からの指摘は、ここに書いてあることに強制力を持たせて  
欲しいという趣旨のものではないため、今後の検討課題という章の中に入れ  
ている。趣旨が明確になる形でよりよい文章があればご相談させて頂く。

自動車メーカーがこのレーダを実用化した後、万が一干渉を起こすほど普  
及が進めば、委員会も動かなくてはならない。よって、今後の状況を踏ま  
えた上で検討等が必要であるという意味で、今後の検討課題という位置づ  
けとなるのであろう。

もし、電波天文業務側が、これをもっと明確にしても構わないということであ  
れば、修正させていただきたい。修正にあたっては事務局と私に任せて頂  
いて、大きな修正があれば委員に伺うということではいかがでしょうか。

委員長にお任せいたします。

了。

調整致します。

アマチュア無線においては、何か検討課題とする懸念事項はないか。

基本的にアマチュア無線側においては大きな問題はない。

報告(案)概要の第 3 章 7 ページ、干渉検討の表の文章の読み方に関して  
だが、野辺山観測所を中心に 10.5km まで均一に見通し内レーダ搭載車両  
が現れると仮定した場合、普及率が 0.3% のとき離隔距離が 9.5km となっ  
ている。これは、野辺山観測所を中心に 9.5km まではレーダが存在せず、  
9.5km から 10.5km の範囲には予測率に従ったレーダがある状態で問題な  
いという趣旨か。

ご認識のとおりで相違ない。

9.5km から先に一様にいる自動車は、電力等で換算されているのか。

集合電力を用いて換算している。

80GHz との干渉の件で、「普及台数が極端に多くなる可能性は低い」との記  
載があるが、普及しないという趣旨か。

主任代理 「極端に多くなる」可能性は低いという趣旨であって、「極端に」普及しないという意味ではない。

(3) その他

- ・何か意見があれば2月24日(金)までに事務局に提出していただき、また、提出された意見は主査と事務局で調整し、この報告(案)を基に早急に意見募集の準備に入るとの連絡があった。
- ・次回の会合は3月13日(火)14時からを予定しており、場所等詳細に関しては、後日事務局から知らせる旨の連絡があった。